

学校名	兵庫県立西はりま特別支援学校
1 ICTを活用した自立活動指導の実践	
(1) 指導期間・指導時数	令和4年4月1日～令和5年3月31日 3日(12時間)
(2) 使用した遠隔システム	Zoom(2回)
(3) 指導目標	○長期目標 ICT機器を使って自立活動の学習を進めることができる。 ○短期目標 音声入力による情報機器の操作を行うことができる。
(4) 自立活動の区分・項目	1 健康の保持 ①生活のリズムや生活習慣の形成
(5) 指導内容	自分で情報機器の操作ができるように音声入力を行う。
(6) 指導の手立て	・本生徒が集中しやすい体勢や環境下で活動を行うようにする。
(7) 指導上の工夫	・4文字以上の言葉になると本人の言葉をAIが聞き取ることが難しいので2文字や3文字程度で音声入力から始める。 ・言葉をはっきりと伝えられるように、五十音を正確に言う練習をして、言葉の発音へとつなげる。
(8) 校内の指導体制	・クラス内で共通認識をし、協力して活動を広げた。 ・リンクした内容の校内研修から最善の方法を考えることができた。
(9) 関係機関との連携(在籍校・保護者・医療・福祉等)	保護者が家庭で音声入力のできる情報機器を使用し、取り組みに賛同していただき、連携して進めることができています。



2 成果と課題

児童生徒の変容

(指導開始前)

これまでは視線入力を主体として情報機器の操作をしていたが、視線が合わず、一度の学習を行うととても疲れることが多かった。

(指導開始後)

言葉を使うことにストレスがないのでAIが間違った認識をしても、何度も繰り返して伝えようとするできるようになった。

成果

- ・言葉を巧みに使えるようであれば、操作が簡単なのでストレスなく楽しく行うことができる。
- ・タブレットの画像は本人にとって見えやすいようで自分の目で見えて考えることができた。また、注視するというトレーニングにもつながった。

今後の課題

- ・音声入力を行う際に発音が悪いと読み取りができずに進むことができない。そのために五十音をはっきりと言うことから行うと時間が多く必要となる。
- ・静かな状況で使わないと周囲の声や音を拾ってしまい、うまく伝えることができない。

3 ICTを活用した自立活動指導についてのコメント

(児童生徒、保護者、教員等の声)

(生徒) 失敗してもすぐにチャレンジできるので楽しく活動できた。

(保護者) 音声入力の学習を進めていることを聞き、家でも音声入力ができる機器を購入し、家族で楽しんで使用している。

(教員) 生徒にとって音声入力は情報機器を使用する一番の近道だと感じた。